

# 報告「医療情報セミナー 2013 in 東京」

日 時 : 2013年2月16日(土) 13:00 ~ 18:00  
場 所 : 東京医科歯科大学、M&Dタワー、2F、共用講義室2  
主 催 : 一般社団法人MUCS監査機構  
協 賛 : 「ラジエンスウエア株式会社」「ソフトバンクテレコム株式会社」  
「ACメディカル株式会社」「情報技術開発株式会社」  
「メディカルドメイン株式会社」

## ＜主催者からのコメント＞

日医IT認定事業所であるORCAベンダーを中心に、医療情報化に貢献する企業が集まり、情報交換をしました。

場所は東京医科歯科大学の協力が得られたこともあり、北海道から九州まで広範囲の関係者が集まりました。

また、報道機関も傍聴されるなど、感心の高さがうかがえました。

医療情報のネットワーク構築はこれからが本番となることもあり、ORCAの役割も益々大きくなってきています。ORCAベンダーの活躍を期待します。

## ＜セミナー前アンケート結果＞

- 1) 交流会の必要性を : 感じている(76%) 感じない(0%) 解らない(24%)
- 2) セミナー開催を : 評価する(85%) 評価しない(0%) 解らない(15%)
- 3) 提供のリソースを : 持っている(15社) 持っていない(20社) 確認する(22社)
- 4) 協力のニーズが : ある(30社) ない(6社) 調査する(21社)

## ＜セミナー参加者からの要望＞

- 1) 参加者同士が直接交流できる機会がほしい(22社)
- 2) ORCAが抱えている問題を解決するための話し合いをしたい(9社)
- 3) 具体的な構築導入案件があれば、商談の機会を持ちたい(8社)
- 4) ORCAビジネスを発展させる専門家の講演が聞きたい(5社)
- 5) 医療従事者の話を聞きたい(3社)
- 6) 技術情報の共有サイトがあれば参加したい(1社)

# ORCAベンダー情報交換会



呼びかけ人のラジエンスウェア株式会社、中嶋社長が司会者となり、ORCA事業の現状と課題をまとめ、解決策を提案しながら、ベンダーの皆さんから意見を聞く方法で情報交換をしました。

参加者は北海道から九州まで全国から集まり、熱心に意見交換されました。

傍聴された日医総研の上野さまより「ベンダーの皆さんが真剣な眼差しで取り組んでいる姿に感激した」と、後でコメントがありました。

## 一般社団法人 MUCS監査機構 の紹介



本セミナーの主催者である、「一般社団法人MUCS監査機構」について、代表理事の板橋会長より、法人を設立した経緯と役割について説明をされました。

＜板橋会長の発言＞

「いつでもどこからでも、医療・健康情報を得られるようにすることで、自分の身を自分で守れる社会を目指すため、個人情報扱う事業社を監査することを目的として設立しました」

「一方では、医療情報化の必要性をPRする活動の一つに、日本医師会が推奨しているORCAプロジェクトを応援しています」  
「従って本日のようにORCベンダーを中心としたセミナーも実施して行きます」

## 本セミナーを協賛された企業の紹介



- ラジエンスウェア株式会社
- ソフトバンクテレコム株式会社
- ACメディカル株式会社
- 情報技術開発株式会社
- メディカルドメイン株式会社

# 講演会



## 【講演1】

講師 板橋明

テーマ「薬の投与とリスク管理」

内容

医師として、日々の診療に最善を尽くすために、生きた情報は欠かせません。お薬を処方する場合でも、治験の段階から因果関係、特に重篤事象のリスク管理は重要です。そこで、副作用情報データベースを分析した結果を簡単に確認できるサービスなどは、有効だと思います。



## 【講演2】

講師 荻原雅和

テーマ「医療現場で求められるクラウド」

内容

救急の専門医は病院を離れてもゆっくり休めず、負担が掛かっています。山梨大学、附属病院で立ち上げた画像配信システムは、CT画像などを専門医へ迅速に送り、ワンタッチで確認できる仕組み。外部にいてもよりの確な指示ができるため、救命率を上げられる効果もあり、期待している。



## 【講演3】

講師 上野智明

テーマ「日本医師会が目指す地域医療ネットワークについて」

内容

現在、各地域で構築中のネットワーク事例と特徴をいくつか紹介します。一方、今後、連携ネットワークが拡大するため、日医としては電子認証の重要性が高まると認識しています。そのため25年度も予算アップさせて取り組んでいます。日医のHPKIは国内唯一、試験運用されています。



参加者はORCAベンダーを中心に主催者を含めて、93人になります。

## 事例発表会(協賛企業)



座長 中里秀則

MUCS監査機構の理事の立場で、司会進行を務めさせていただきます。



### 【発表1】

会社 ラジエンスウェア株式会社

発表者 内田勇氣、酒井譲、高野早苗

事例1 「ORCAと電子カルテ連携で使うClaim通信の問題点を改善させたもの」

URL

事例2 「ORCAと連動してレセプト点検をするソフトの紹介」

データセンタ方式で、マスタ管理も代行できるので、事務員さんは手間いらずです。

URL <http://recerakunet.com/>



### 【発表2】

会社 ソフトバンクテレコム株式会社

発表者 古屋 初男

事例「ソフトバンクの取組事例」

日本の医療ICTの立ち遅れを踏まえて、2010年、社長の孫正義がソフトバンクの強みを生かして医療分野に貢献することで、医療従事者の負担を少しでも軽減できるよう取り組んでいます。

URL <http://www.news-medical.jp/news-iryu/65983.html>



### 【発表3】

会社 ACメディカル株式会社

発表者 仁賀 勝彦、新井常夫

事例「薬の副作用に関する情報提供サービス: Mass-adr」

薬の有害事象についてアメリカでは5年前から公開されていましたが、日本では2012年4月に公開実施されました。このデータを元に多くの切り口から分析してドクターや薬剤師さんに役立つ生の情報を提供してまいります。

URL

<http://www.acmedical.co.jp/service/index.html>



#### 【発表4】

会社 情報技術開発株式会社

発表者 南 耕

「医療情報システムのセキュリティーについて」

病院のネットワークを構築する場合、現状を把握し安全なLAN環境を設計します。病院の経営者へセキュリティの重要性を理解していただき、病院の規模に応じた提案をしてまいります。

URL

[http://www.tdi.co.jp/gyoumu/solution\\_security.htm](http://www.tdi.co.jp/gyoumu/solution_security.htm)



#### 【発表5】

会社 メディカルドメイン株式会社

発表者 永島道夫

「地域連携とORCAの役割について」

在宅医療のネットワーク化について7割が不安を感じている。静岡の事例ではカードシステムを使って運用しているところもある。データ連携ではレセコンORCAはデータの取り出しが便利なので「ORCAっていいじゃないか」と広く言われるようになりました。

URL <http://www.medical-domain.com/products/index.php>

---

## 展示企業 商品紹介



#### 【発表1】

会社 株式会社アップルドクター

発表者 南里裕一郎

「電子カルテは未だ知らない」と言われる先生が多い中で、ORCAと連動する紹介状作成ソフトを開発しました。MAC、Windows、で使えます。

URL <http://www.apple-doctor.co.jp/add.html>



#### 【発表2】

会社 株式会社アイソル

発表者 田中雅史

ORCAと連動する順番待ちソフトの紹介です。また、電子カルテも手掛けていて、安価なクラウドサービスも始めています。

URL <http://www.ai-sol.jp/product/06/index.html>